



## 命を守るために必要な防災とは

カムチャツカの大地震の影響で津波警報が全国に出されたのは、ちょうど東日本大震災被災地を回る旅から帰った2日後でした。朝からの津波警報のサイレン音に、地震がなかったので訓練？と思ったのは私だけではないと思います。

市内の南部10か所の避難所に290人ほどが避難しました。熱中症アラートが出される中、クーラーのある部屋(学校では体育館ではなく教室)が用意されました。災害は時を選ばないので、夜間や厳寒期、悪天候など、人の都合にお構いなく起こります。

私たちが今備えるべき南海トラフ巨大直下型地震の津波到達は地震から最短で数分とも言われています。様々なリスクが同時に起こる想定が難しい大災害から命を守る備えが求められています。



旧陸前高田市立気仙中  
校長の判断で通常の避難地ではなく近くの高台に避難



旧石巻市立大川小  
津波の力で教室と体育館の渡り廊下はなぎ倒された



旧石巻市立門脇小  
高台避難の後津波火災が。児童を追って避難した住民は助かったが、留まった住民も

今回私は、釜石・陸前高田・気仙沼・南三陸・石巻と岩手から宮城で命が守れなかったところと、九死に一生を得た両方を、震災遺構や伝承館の展示だけでなく体験者の講話や避難の追体験なども通して体と頭の両方で学びました。釜石での防災教育でも有名な片田敏孝先生(震災当時・群馬大教授)は著書「人が死なない防災」の中で3つの原則を上げています。

- ① 想定にとらわれるな
- ② 最善をつくせ
- ③ 率先避難者たれ

この3原則が言わんとしている事を追体験してみ感じました。実は生と死は紙一重であったこと、命が助かった成功体験として語られている地域でも亡くなった方は大勢いて、大きな犠牲もほんの少しの判断の誤りや躊躇が原因となったことを知りました。

## みろっこに行ってみた

経済的にゆとりのない方からは「そもそも一人400円が高いと思う私たちは利用の対象から外されている。お金を落とさないなら来るなといわれているみたいで悔しい」という声ももらいました。

- 外遊びのできない時、思いっきり遊べる広さがある屋内遊び場は子どもも親もうれしい。
- お金さえあれば、お父さんも一緒に家族で行くことができるが、飲食物の持ち込みもできず、カフェも値段が高くて、日常的に気軽に行くにはお金がかかりすぎ。特別の日に家族で行くところなのか。
- 市民というより、市外含めての利用を想定していて、市の税金でつくった市民のための子育て支援の施設とは思えない。
- これだけの猛暑でクーラーのきいた屋内遊び場は本当にありがたいのに、入場制限・時間制限・予約がいっぱいで肝心な時に気軽に利用できない。

利用者の声をしっかりと拾い上げて、利用料金や運用の見直しを行っていくことを求めます。

想定を超える場合の計画を持たず、判断を誤った学校管理職、それに従った教員、教員に従わざるをえなかった子ども、誤った判断を後押ししてしまった地域の声：多くの犠牲を出した大川小学校とその地域は象徴的です。自分の意志で主体性をもって高台への避難を行った釜石東中の生徒は、高台への避難をためらっていた小学生などを巻き込み率先避難者となりました。最善を尽くすという防災教育が命を守りました。

津波火災で悲惨な状況になった門脇地区は、避難訓練を重ねていたため、たため小学校では厳しい状況下でも逃げられたのに対し、安全な高台の幼稚園では通園バスに子どもを乗せて坂を下り子どもが亡くなる対照的な結果になりました。施設の防災というネーミングが住民を避難させた事例も。自治体職員だった方からは避難できない責任ある立場の人々(消防団員・施設職員など)に犠牲をうまない防災対策が必要という話も聞きました。豪雨災害等も含め命を守るためには危険性が高い場所に、公共施設医療・介護・福祉施設などは建ててはいけないことも強く感じました。